

令和3年度 根岸地域ケアプラザPDCAシート_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

—総括表—		
◆ 事業計画		
<input type="checkbox"/> 地域の現状と今後の方向性		
JRの駅周辺や八幡橋付近、浜に主要な商業施設があり、高齢者等にとって買い物に行きにくい地域もあります。新しい集合住宅が建っている地域があり、全体の高齢化率が抑えられているところもありますが古くからある集合住宅や地区によっては高齢化が進んでいる地域もあります。住民の結びつきが強く、連合町内会を中心に組織化されており、ボランティア活動や地域福祉保健計画への取組みにも熱心な地域です。地域がこれからも元気に活動できるように広く住民が健康作りを取組むことまた、その場が用意されていること。また、既存のボランティア活動や地域サロン、健康作りの取組みが継続されるよう新たな担い手が育成されることが必要と考えています。		
<input type="checkbox"/> 今年度の重点的な取組		
新規	継続	—具体的な取組内容—
■	<input type="checkbox"/>	・「ソフトタウン根岸ささえあいたい」がハマボノプロジェクトを利用し、支えあいたい事業の見直しを図るにあたり、打ち合わせ場所の提供や調整などの後方支援を行った。
<input type="checkbox"/>	■	・民生委員から定期的に聞き取りを行い、心配な方の情報を共有し、対応することができた。 ・また、民生委員との信頼関係のもと、問題が発生した場合には、民生委員から早めにケアプラザに連絡をいただき、対応することができている。
■	<input type="checkbox"/>	・コロナ禍でもあり、地域の様々な団体の中で認知症サポーター養成講座はできなかったが、ケアプラザで、一般住民向けに開催し、たくさんの参加者があった。 ・ユマニチュードのDVD上映会も行い、認知症の理解啓発を計った
■	<input type="checkbox"/>	・おうちでできるボランティアというコンセプトで、おさいほうボランティア「ピンクッション」を立ち上げた。
■	<input type="checkbox"/>	・7月12日にラ・フランス(ケアマネ向け講座)で高齢者虐待防止研修会を行いました。 模擬ネットワークミーティング。
◆ 事業報告・事業実績評価		
<input type="checkbox"/> 振り返り		
令和3年度前半に新型コロナウイルスの感染拡大があり、地域の活動が自粛されたことから関係団体と連携した事業や地域ケア会議、協議体の開催が困難であった。 また、ICTを活用した事業も試みたが一般の方には浸透しておらず、事業として行うことが困難であることが分かった。 今年度は初めてのスマホ教室を開催し、スマートフォンで交流できる人を増やす取り組みを行った。 集合しなくてもスキルを活かしてボランティア活動ができるお裁縫ボランティアの立ち上げ、朗読ボランティアの活動をDVDに録画し、高齢者施設で紹介することでコロナ禍でもボランティア活動ができる方法を模索した。 どのような状況でも社会とかわかり、コミュニケーションが取れるために今年度の取組みを次年度に活かしたいと考えている。		
<input type="checkbox"/> 区からのコメント		
昨年度に引き続き、コロナ禍でも地域の皆様のため感染対策に取組、工夫しながら事業を進めていただきありがとうございました。ICT活用やスマートフォンについては、人によっては苦手意識を持っており、地域の中に1ツールとして根ざしていくのは非常に大変かと感じます。しかし、このコロナ禍においては、コミュニケーションを容易にするツールとしては、有効な手段となるため今後も粘り強く取組を進めていただけることを期待します。 高齢者支援の分野では、区内で初めてオンラインによる介護者のつどいを試行するなど、参加促進のための工夫をされています。また、ハマボノ(ヨコハマプロボノ)事業では、推薦した地域のボランティア活動団体への約半年にわたるバックアップ等を通じて、このプロジェクトを効果的なものにしていただきました。今後、当該団体の活性化はもちろん、エリア内、さらには区内のモデル事業として生かされるものと考えています。		